

[373 上]内部的アレンジメント

内部的アレンジメントは領土的アレンジメントを含むだけでなく、アレンジされ、領土化した諸機能も含んでいる。

オスのミソサザイ；警告、巢作り、求愛...。内部的アレンジメントには、ありとあらゆる種類の、非等質な成分が介入してくる。素材、色彩、匂い、音、そして姿勢を結びつけるようなアレンジメントの**指標**があるだけでなく、アレンジされた行為の様々な要素が、一つの**モチーフ**に組み込まれる。

存立性；「領土化を行う指標」、「領土的モチーフ」、「領土化した機能」が、すべて同一の内部的アレンジメントの中で同時に成り立つように仕向けるもの。

[374 上]相互的アレンジメント

別のアレンジメントへの橋渡しを行う移行のアレンジメント。自立的な、脱領土化したアレンジメント。

「草の切れ端」という表現の質料は、領土的アレンジメントと求愛のアレンジメントのあいだの橋渡しをする移行の成分として作用する。「草の切れ端」は操作子であり、アレンジメントの変換器である。

「草の切れ端」の代わりになる中継の成分がリトルネロである。

内部的アレンジメントは相互的アレンジメントから切り離せない。

[375 下]生まれ故郷

内部的アレンジメントは領土的アレンジメントであり、性愛、攻撃性、群居性など、さまざまな機能と力を領土化するだけでなく、領土化することによって変形をもたらす。

領土化した機能や力はそれによって自立性を獲得することがあり、またそれが機能や力を別のアレンジメントに転換させ、脱領土化した別のアレンジメントを構成するようしむける。

(フーコー『快樂の活用』。性愛 = 快樂を通じて養生術、家政術...等を制御する主体 = 領土を形成、様式化してゆく)

領土と脱領土の両義性は、生まれ故郷の両義性である。領土が自己の最も深いところにある強度に結びついていること、強度の中心は領土の外に位置していること。生まれ故郷 = 潜在的なものは領土 (= 現働的なもの)の外にある。

[377 上]リトルネロの分類

領土を求め、領土を標示し、領土をアレンジする領土的リトルネロ。

アレンジメントの中で特別の機能を担う、領土化した機能のリトルネロ (眠り - 子供 - 子守唄、性愛 - 恋人 - 恋歌...)

同じアレンジメントが新たなアレンジメントを標示し、脱領土化と再領土化によって新たなアレンジメントに移行する場合 (セリー化。はやし歌 - 遊戯のアレンジメント)。

領土の内部で、あるいは外に出るために力を寄せ集め、結集させるリトルネロ。大地を離れ宇宙的になる。脱領土化した巨大なリトルネロとしての宇宙。

[377 下]存立性

存立性の問題は、明らかに領土的アレンジメントの諸成分が同時に成り立つときの在り方にも関係している。だがこの問題は、それぞれ異なるアレンジメントが移行と中継の成分によって成り立つときの在り方にも関係している。

領土の存立性を保証するのは、リトルネロのように、最も領土化した成分であり、脱領土化を示すベクトルではなからうか？

存立性を表現する図式は、生得 - 獲得、抑制 - 誘発の軸による樹木状の線形的なものではない。

中心も階層も持たない新たな図式、リゾーム状の作動形態。

セリー間における相互作用と連携作用。

[379 上]存立性の強化

存立性の問題には、生物学的 - 行動学的な「機械系」があり、大規模な分子工学がある。

デュブレール「強化の理論」；生命は中枢から外部に向けて動くのではなく、外から内へ、曖昧集合や離散集合(「数えられる数」)から集合の強化(「数える数」)に向かう。

強(度)化の技法。存立性とは強化に他ならない。強化は創造を行う(モチーフと対位法の形成)。

挿入；何らかの はじまり があって、そこから線形的な連続が派生してくるのではなく、濃密化、強度化、補強、注入、そして詰め込みが、挿入行為として機能する。

間隔；インターバルを整え、不均等なものを配分する必要が高じた結果、強化するためには穴を開けねばならない場合すらある。余白。

重畳；不揃いなリズムを重ね合せ、相互リズム性を内的に配置し、拍子やテンポの強制を避けるということ。

建築において存立性 = 強(度)化の技法は結構の問題である。部材間の結構(構法)のみならず、諸ルーム間の結構(構成)が、どのように諸ルームを活かし、新しい機能性を付加できるのかが問題となる。

素材をますます豊かにする(差別的)境位は、非等質なものを共存させながらも非等質性を失わせることのない境位である。

強化とは、存立性が大地 (= 潜勢力)にかかわる場合の呼名である。領土的アレンジメントとは、共存と継続の相のもとに環境を、時 - 空を強化した状態である。そしてリトルネロは強化の三つの要因 - 挿入、間隔、重畳 - を駆使する。

[380 上]表現の質料

存立性が出現するためには、それを可能にする特質を、表現の質料自体が備えていなければならない。

表現の質料は離散集合であるが、存立性を強化し、諸機能の再編、諸力を結集(リビドーの再備給)させる。

アトリの歌；サブ・ソング = 指標、立札。フル・ソング = モチーフ、対位法。前者が後者へ移行するのは、前者が後者において自己を強化する能力によってである。

指標の段階に留まる限り、雑多な指標が共存あるいは継起するに留まる。しかし、質を伴う非等質な指標 = 質をモチーフと対位法に組織するとき、存立性を引き起こし、音 - 色彩 - 動作を相互に接続し、種の異なる動物の音声を相互に接続する。機械状のオペラ。

[381 上]機械状の言表行為

非等質なものを非等質のまま総合すること(「離接的総合」あるいは出来事)。非等質なものが表現の質料であるかぎり、非等質なものの総合自体が、存立性あるいは捕獲作用として「言表」を形成し、機械状の「言表行為」を形成する。

スキノピーティスにおける色彩 - 音 - 動作 - 運動 - 姿勢が結ぶ多彩な関係。**機械状言表**あるいは**言表行為のアレンジメント**。
固有の周波数。声 - 帯域。

存立性に見地に立つ限り、表現の質料は、モチーフと対位法を形成する能力だけに結び付けられてはならず、表現の質料に作用をおよぼす抑制因子と始動因子に結び付けられ、表現の質料を変化させる生得性または学習の、遺伝または獲得の機構にも結び付けられねばならない(「連接的総合」)。

[382 下]生まれ故郷

生まれ故郷 とは、領土的アレンジメントの中で生得と獲得を記し付ける新たな相貌である。

領土的アレンジメントが生まれるとすぐに、生得性は脱コード化の動きと不可分になり、内部環境の生得性とは逆に、コードの余白に移る。獲得は領土化される。表現の質料に焦点を合わせ、もはや外部環境の刺激を受け付けなくなる。学習の領土化。

生まれ故郷 には生得と混在では説明のつかない存立性がある。生まれ故郷 の方が、領土的アレンジメントや相互的アレンジメントにおける混在を説明する。

生まれ故郷 は内部的アレンジメントに生起する事象から、外に投射される中枢に辿り着き、相互的アレンジメントを一つ残らず通り抜け、宇宙に達する。

[383 下]機械

領土的アレンジメントは脱領土化の線、あるいは脱領土化の係数から切り離せない。別のアレンジメントへの移行や中継から切り離せない。

アトリの集団。脱領土化あるいは 生まれ故郷 からの離脱が、ある時点である種に及ぼす効力を考慮しなければならない。

機械の始動。脱領土化の途上にあるアレンジメントに組み込まれ、アレンジメントの変化と異変を描き出す先端の集合。

機械状アレンジメントは諸々の機械の効果 (= 出来事) である。

[384 下]ブラック・ホール

脱領土化したアレンジメントが、他のものにかれるのではなく、閉塞の効果をもつため、ブラック・ホールに落ち、その中で回転し続けることもある。

ブラック・ホールは複数のアレンジメントにおける機械の効果であり、それが他の効果と複雑な関係を結ぶ。

ブラック・ホールが一斉に共鳴するとき、存立性における開放性は不可能になり、閉鎖し、真空状態で脱領土化する。

あらゆる機械はアレンジメントや領土を開いたり閉じたりする特異な鍵である。

[385 上]表現の質料の存立性

「表現の質料」という言葉自体、表現は物質と独特な関係を結ぶということを含意している。

リズムとメロディーのモチーフを形成する能力

生まれ故郷 の力能

分子状のものに対する表現の質料の特異な関係、機械。

表現の質料は、存立性を獲得するにしたがって、いくつかの記号系を形成する。しかし、記号系の成分は物質的な成分から切り離すことが出来ず、とりわけ分子のレベルに接続される。

[385 下]モル状 - 分子状、地層と存立平面

原子の個別的現象は統計的な、あるいは確率論的な集積に組み込まれる。

モル状集合の範囲内で、現象の個別性を消去する。

しかし、同じ現象が存立性を形成し、分子状の異質性を保存する場合もある。

モルと分子の差異は統計と個別性との間にはない。差異は二通りの集団運動のあいだに求められる。

ダランベールの等式「発散波と遅延的ポテンシャル」と「集中波と予想的ポテンシャル」

分子内に限定された内的な力は、集合にモル状の形態を与えるに際して二つのタイプを持つ。

) 位置決定が可能で線形的、機械的樹木状。作用 - 反作用。

) 超線形性。リゾーム

この差異は物質と生命に関わる。あるいは原始的物質の二つの傾向。「地層化されたシステムと地層化のシステム」と「存立性をもつ自己存立する集合、機械状系統流、脱地層化的横断性」。

しかし、存立性は複雑な生命形態のみならず、原子や素粒子に対して、全的な広がりを見せる。

[386]生命の場

生命の場には存立性の利得が、剰余価値(脱地層化の剰余価値)が含まれている。生命の場は自己存立性の集合や強化のプロセスをはるかに多く含みもち、これらにモル状の射程を与える。

生命の場のコードは地層全体に配分されるのではなく、特殊な発生論的線を占める。

領土的アレンジメントは脱コード化を伴い、アレンジメントを触発する脱領土化から切り離すことができない。

エソロジー; あらゆる多様な成分が、階層序列なしにアレンジメントの中で結晶化する有様を記述すること。

記号系と物質系が重なり合うことによって、新たな「様相」が生まれるのである。

アレンジメントは再 - 地層化しようとする領土的閉塞と、アレンジメントを宇宙に連結する脱領土的開放とのあいだを揺れ動く。

地層が硬化し、組織化される場は存立平面上にあり、存立平面が作動し、構築されるのは地層の中である。